

わらびの会とは

こどもたちが安心して十分な医療を受けられるよう、病気や障がいのある子どもと家族の支援に関する事業を行い、こどもの健全な育成と医療福祉向上に寄与することを目的として活動しています。ファミリーハウス「がじゅまるの家」受託運営事業もそのひとつです。

ファミリーハウス「がじゅまるの家」

離島や遠方から治療・入院する病気や障がいのある子とその家族が、心身ともに安らぐことができるわが家同様の滞在施設で、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターのすぐ近くにあります。安価でプライバシーが守られ安全に過ごせるようにハウススタッフやボランティアが利用者のサポートを致します。

病気と闘うこども、そしてその陰でがんばる

「きょうだい」にも、あたたかな支援の手を。

医学の進歩にともない、たくさんの小さな命が救われるようになりました。その一方で、長期間の入院や治療が必要になり、家族の関わり方に大きな変化が生まれています。

病気のこどもに付き添うため、お父さんやお母さんは病院での生活を余儀なくされます。どうしても意識が病気の子どもへと集中しがちになります。その結果、お家に残された「きょうだい」は、長い間親に甘えられず、寂しい思いを抱えることになります。以前はとても仲の良かったこどもたちが、入院期間中の心のケアが足りなかったために、退院後にぎくしゃくしてしまうケースも少なくありません。医療の狭間で、どうしても目が行き届きにくくなる「きょうだい」への支援は、今まさに求められています。

ファミリーハウス「がじゅまるの家」では、「きょうだい」も連れて宿泊されるケースがあります。

お父さんやお母さんが安心して病気のこどもの看病に専念できるよう、ファミリーハウス「がじゅまるの家」では、南風原町社会福祉協議会のファミリーサポートセンターと協力し、一緒に宿泊する「きょうだい」を対象とした預かり保育（保育サポーターの派遣）を無償で行っております。

ご家族の経済的な負担を軽減するためのこの取り組みは、この度「おきぎんふるさと振興基金」様からの温かいご支援をいただき、その助成金を原資として運営させていただきました。

貴重なご支援のおかげで、遠方からの病児入院家族に安心を届けることができました。心より深く感謝申し上げます。

ファミリーハウス「がじゅまるの家」利用者の声

産前、産後とお世話になりました。切迫早産、息子の心臓の手術、長女のケア・・・心身ともに不安いっぱいでしたががじゅまるの家のスタッフの皆さまに支えていただきました。「わが家のピンチを救ってくれた場所」です。久しぶりに娘と一緒に寝ることができた夜、病気の子とその家族をサポートしてくれる場所があるありがたさをかみしめて過ごしました。心臓病の子をもつ家族のコミュニティ、きょうだい児のケアなどこれからもお世話になることと思いますがよろしく願いいたします。がじゅまるの家でのたくさんのご縁に感謝しています。ありがとうございました。

😊 がじゅまるハウスがあったからママと会えたから自分はよかったと思いました。ありがとうございました。（7才娘コメント）😊 名護市 Hさん

認定特定非営利活動法人こども医療支援わらびの会のあゆみ

- 1996年5月 「心臓病の子どもを守る会」の呼びかけでこども病院設立運動立ち上げ
- 2000年9月 約20万人の署名と請願書（こども病院早期設立を要請）を稲嶺県知事へ提出
- 2005年8月 「特定非営利活動法人こども医療支援わらびの会」設立
- 2006年4月 「沖縄県立南部医療センター・こども医療センター」開院
- 2008年6月 ファミリーハウス「がじゅまるの家」開所
- 2014年3月 第36回「琉球新報活動賞」受賞
- 2015年9月 わらびの会設立10周年記念パネル展示キャラバン
- 2020年6月 沖縄小児保健賞受賞
- 2024年3月 「認定特定非営利活動法人」更新

ご支援に感謝申し上げます

これからも闘病を続けるこどもたちと、それを支えるご家族全員が、不安な日々の中でも安心して笑顔になれる未来を目指し、当会は温かい支援を届けてまいります。この支援活動を継続していけるよう皆さまのあたたかいご支援、ご協力をお願いいたします。